

大阪大学医学部附属病院

疼痛医療センター

Center for Pain Management

News Letter

2016年 4月 発行

Vol.

5

発行元

大阪大学大学院医学系研究科
疼痛医学寄附講座

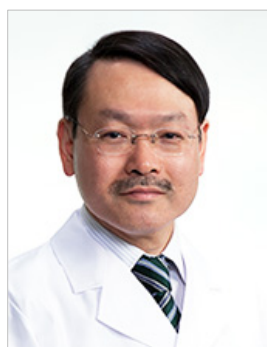
連絡先

☎ 06-6879-3745

✉ secretary@pain.med.osaka-u.ac.jp

センター長の就任にあたって

疼痛医療センター センター長 藤野 裕士



4月1日から疼痛医療センター センター長を拝命致しました。

現在の麻酔科の業務は手術室麻酔、疼痛医療、集中治療に大きく分かれます。疼痛医療と集中治療は手術室の全身麻酔から発展したのですが、

それぞれ独自の発展を遂げて参りました。特に疼痛医療は麻酔科医の周術期の鎮痛薬の使用経験

や神経ブロックなどの技術をもとに積極的に推進してきた歴史があります。

現在の疼痛センターは麻酔科および疼痛医学寄附講座、神経内科、脳神経外科、整形外科など幅広い診療科による協力体制のもとで運営されており、難治性疼痛患者の診療や緩和医療への関与など病院機能の上でなくてはならない役割を果たしています。

センター長として疼痛医療センターのさらなる発展に向けて尽力して参りたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

疼痛医療センターの最近の取り組み：基幹病院でのセミナーの開催

疼痛医療センター 副センター長 柴田政彦

本年1月から大阪大学医学部附属病院疼痛医療センターの診療および臨床研究の内容を紹介するために、地域の基幹3病院を訪問して医療者向けのセミナーを開催しました。

大阪労災病院では、治療抵抗性慢性疼痛に対する統合医療的介入について（統合医療・林先生）、牛車腎気丸の抗サルコペニア効果と慢性疼痛に対する効果検証研究など漢方医学寄附講座の取り組みについて（漢方医学・萩原先生）、疼痛医療センターにおける多職種による集学的診療の方法とその効果について（疼痛医学・柴田先生）、難治性神経障害性疼痛患者を対象とした反復経頭蓋磁気刺激による大脳一次運動野刺激の医師主導型治験について（脳神経外科・齋藤先生）、お話しをしました。

関西ろうさい病院では、中枢機能障害性痛など慢性疼痛の新しい分類について（早石病院・三木先生）、腰痛の鑑別と手術について（関西ろうさい病院・坂浦先生）、慢性腰痛

に対するインターベンショナル痛み治療の進歩について（麻酔・集中治療医学・松田先生）、運動器慢性疼痛の運動療法について（篤有会リハビリテーションクリニック・高橋先生）、お話ししました。

星ヶ丘医療センターでは、齋藤、高橋、柴田に加えて麻酔・集中治療医学講座の植松弘進先生が慢性関節痛に対するインターベンショナル痛み治療についてお話ししました。

施設によって参加者の数には差がありましたが、熱心な方々に集まっていただき、活発な意見交換が出来ました。いずれの施設でも長期間痛みで苦しんでおられる患者さんの治療には苦慮されており、われわれ疼痛医療センターに寄せていただいている期待の大きさをあらためて実感しました。

今後の疼痛治療や臨床研究の発展につながる企画でしたので、運営を改良して、今年度も引き続き実施する予定です。

慢性疼痛対策に関する国の見解と今後の取り組みについて 衆議院予算委員会 第五分科会で質疑がおこなわれました

去る2月25日、衆議院予算委員会 第五分科会において、我が国の慢性疼痛対策の現状と今後のあり方に関する質疑がおこなわれました。

質問に立った『慢性の痛み対策議員連盟』の武村展英議員（自由民主党）は、「国民の多くが苦しむ慢性痛は国民的問題であること」、「慢性痛の診療には総合的なアプローチが必要であること」について、厚生労働省の認識を尋ねました。また、海外で普及している学際的痛みセンターでの慢性痛の治療について、我が国の現状と今後の取り組みに関して、厚生労働省の見解を求めました。

これに対し、福島靖正政府参考人（厚生労働省医政局長）からは、慢性疼痛は適切な対策が求められる非常に重要な問題であると認識しており、『慢性の痛みに関する検討会』の提言に基づいて平成23年度よりさまざまな施策をおこなっており、今後も慢性痛の病態解明・治療法の開発に関する研究体制の充実に努めるとともに、痛みセンターの設置による診療体制の構築等、総合的な対策を進めていくとの答弁がありました。



衆議院予算委員会第五分科会にて慢性疼痛対策に対する国の見解について質問する『慢性の痛み対策議員連盟』の武村展英議員（自民党）

『慢性の痛み対策議員連盟』（会長 野田聖子衆議院議員）は、慢性の痛みについての理解を深め対策を強化していくことを目的として、2014年6月に設立されました。

痛みに対する医療政策のあり方に関する医療者、患者会、厚生労働省などとのこれまでの議論を基に、より一層の取り組みの強化を図るべく、今後は議員立法による「慢性の痛み対策基本法」（仮称）の制定を目指していくとのことです。

議連の活動のさらなる発展が期待されます。

学術セミナー開催報告

疼痛医療センターでは隔月で学外・学内講師による公開のセミナーを開催しています。

2015年11月は本学歯学部附属病院の石垣尚一先生から、“Will today’s physical activity and sleep/arousal state affect tomorrow’s chronic pain intensity? A brief introduction of the methodology and preliminary results” と題し、前日の身体活動状態や睡眠・覚醒状態と次の日の痛みの強さとの関係に関する研究の結果をご紹介いただきました。

また、歯学系研究科高次脳口腔機能学講座の杉村光隆先生からは、『歯科における難治性疼痛の臨床と研究 -痛みと女性ホルモン-』と題し、歯科ペインクリニック外来の現状と、中高年女性に関する問題として、エストロゲンと痛みの関連についての知見をご紹介いただきました。

2016年1月は情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センターの内藤栄一先生に『運動制御と身体認知を支える脳

内身体表現の神経基盤』と題し、近年、幻肢痛などの難治性疼痛の病態や治療においても注目されている脳内身体表現の神経基盤について解説いただきました。

3月は本学疼痛医学寄附講座の三木健司先生に『中枢機能障害性疼痛・特発性慢性疼痛 -私の痛みはどこから来るの?-』と題し、慢性疼痛医療に関する幅広い知見と、中枢機能障害性疼痛を含めた痛みの新しい病態分類についてご紹介いただきました。

今後は、5月に東京慈恵会医科大学の加藤総夫先生、7月に本学漢方医学寄附講座の萩原圭祐先生にご講演いただく予定です。ぜひ、ご参加ください。



石垣尚一先生



内藤栄一先生



三木健司先生



杉村光隆先生

今後の予定等の確認はこちらから。

疼痛医療センター学術セミナー ウェブサイト
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/cpm/seminor.html>